

基地と岩国

令和元年版



山口県岩国市

はじめに



岩国市は、本市のシンボルである名勝錦帯橋をはじめ、温泉や自然景勝地、多くの銘酒など、数々の観光資源を有する「観光のまち」、瀬戸内海臨海工業地帯の一翼を担う「工業のまち」であるとともに、米軍及び海上自衛隊が共同使用する岩国航空基地が所在する「基地のまち」でもあります。

前回の発刊から5年が経過いたしました、この間を振り返りますと、基地を巡る大きな動きとして、平成30年3月、在日米軍再編による神奈川県厚木飛行場からの米海軍の空母艦載機約60機の移駐が完了しました。これにより、本市の米軍関係者の人数は1万人を超えると見られています。

本市においては、これまで、航空機騒音や事件・事故等、基地に起因する様々な障害を軽減する対策に取り組むとともに、平成26年12月に策定した市の総合計画で「基地との共存」を掲げ、基地所在のメリットを活かした英語教育、災害対応についての米軍との協定締結、米軍基地の滑走路を利用する「岩国錦帯橋空港」の活用など、様々な分野で、基地が所在するメリットを最大限に活かしたまちづくりを進めています。

平成30年7月には、日米共同使用の施設である愛宕スポーツコンプレックスが完成し、日米友好のシンボルである絆スタジアムをはじめ、陸上競技場、カルチャーセンターなどの施設で、スポーツや文化活動を通じた様々な取り組みを行っています。その中でも、日米親善リレーマラソンや岩国フレンドシップフリーマーケットは多くの日米の人で賑わい、言葉や文化などの違いを越えた交流が行われています。

また、空母艦載機の移駐に伴い、これまで以上に、市民の皆様の声によく耳を傾け、騒音や治安の問題への適切な措置を担保するなど、実効ある安心安全対策を確保し、その上で、地域の発展に資する地域振興策が講じられるよう取り組んでまいります。

本書は、基地のまちである本市の現状と対策や日米交流などの様々な取り組みを知っていただくとともに、基地と共存する行政の参考にしていただければと思います。

発刊に際しましては、多くの方々に御指導、御協力、資料提供等をいただきましたことに、心よりお礼を申し上げます。

令和2年3月

岩国市長 福田良彦

もくじ (本編)

1 岩国市の概要

- (1) 岩国市の位置と歴史..... - 1 -
- (2) 岩国市の人口と世帯数..... - 2 -

2 岩国基地の概要

- (1) 基地の沿革..... - 3 -
- (2) 基地の概要..... - 6 -
 - ア 位置及び面積..... - 6 -
 - イ 主要施設..... - 9 -
 - ウ その他の施設..... - 13 -
- (3) 米海兵隊岩国航空基地の現況..... - 16 -
 - ア 組織及び編成..... - 16 -
 - イ 指揮系統図..... - 18 -
 - ウ 駐留部隊の任務..... - 20 -
 - エ 歴代司令官..... - 20 -
 - オ 配備航空機..... - 21 -
 - カ 航空機配備変遷（米軍）..... - 24 -
 - キ 基地人口..... - 25 -
 - ク 航空機離着陸回数（自衛隊機等も含む）..... - 26 -
 - ケ オスプレイに関する経緯..... - 27 -
 - コ F-35Bの岩国基地への配備（機種更新）の経緯..... - 36 -
 - サ 基地従業員の状況..... - 38 -
- (4) 海上自衛隊岩国航空基地の現況..... - 40 -
 - ア 組織及び編成..... - 41 -
 - イ 部隊編成図..... - 42 -
 - ウ 各部隊の任務..... - 44 -
 - エ 第31航空群歴代司令..... - 44 -
 - オ 常駐航空機..... - 45 -
 - カ 航空機配備変遷（自衛隊）..... - 48 -
 - キ 基地隊員数..... - 49 -
 - ク 救難飛行艇の災害派遣実績..... - 50 -
 - ケ MH-53E除籍セレモニー..... - 51 -
 - コ 台風19号災害派遣..... - 51 -
 - サ US-2初女性機長フライト..... - 51 -

3 基地と住民生活

(1) 岩国日米協議会での確認事項	- 52 -
(2) 航空機騒音問題	- 54 -
ア 騒音実態調査	- 54 -
イ 騒音軽減の取り組み	- 57 -
ウ 着艦訓練	- 72 -
エ 日本放送協会（NHK）受信料減免措置	- 78 -
(3) 航空機による安全上の問題	- 81 -
ア 航空機の墜落等の危険性	- 81 -
イ 航空機の墜落等による被害状況	- 81 -
ウ 上空制限	- 88 -
(4) 土地利用上の問題	- 91 -
(5) 船舶の航行及び漁船操業禁止区域による被害	- 91 -
(6) 米軍人等による犯罪及び交通事故等による被害	- 93 -
ア セーフティブリーフィング	- 97 -
イ 安心・安全共同パトロール	- 97 -
ウ セーフティドライビングスクール	- 98 -
(7) その他基地に起因する問題	- 98 -
ア 水質関係	- 99 -
イ 大気関係	- 99 -
(8) 苦情状況	- 99 -
(9) 基地との交流	- 104 -
ア 日米親善デー	- 104 -
イ 錦帯橋まつり	- 104 -
ウ 岩国基地内大学	- 105 -
エ 日米協会岩国	- 105 -
オ ボランティア活動	- 106 -
カ スポーツ交流	- 107 -
キ 日米合同交流コンサート	- 107 -
ク 英語交流	- 108 -
ケ 愛宕スポーツコンプレックスを活用した日米交流	- 108 -
コ その他	- 109 -
(10) 産業振興	- 109 -
(11) 災害対応についての協定	- 110 -
(12) 民間空港の再開	- 110 -
(13) パブリックアクセスロード	- 113 -

4 岩国基地の沖合移設

- (1) 沖合移設の必要性 - 114 -
- (2) 沖合移設の経緯..... - 114 -
- (3) 事業概要 - 115 -
- (4) 沖合移設関係調査及び工事概要 - 116 -

5 在日米軍再編と岩国基地

- (1) 在日米軍再編 - 120 -
- (2) KC-130 空中給油機の移駐..... - 122 -
- (3) 厚木基地からの空母艦載機の移駐..... - 123 -
 - ア 移駐の背景..... - 123 -
 - イ 空母艦載機の移駐..... - 123 -
 - ウ 空母艦載機移駐完了後 - 124 -
- (4) 在日米軍再編問題の経緯と岩国市の取組み - 125 -
- (5) 愛宕山用地における施設整備について..... - 136 -
 - ア 施設整備の概要..... - 136 -
 - イ 運動施設エリアの整備概要 - 136 -

6 基地周辺の生活環境の整備

- (1) 基地周辺整備事業 - 141 -
 - ア 障害防止工事の助成..... - 141 -
 - イ 住宅防音工事の助成、移転の補償等、緑地帯の整備 - 145 -
 - ウ 民生安定施設の助成..... - 155 -
 - エ 防衛施設周辺整備統合事業 - 162 -
 - オ 防衛施設周辺補償事業 - 163 -
 - カ 特定防衛施設周辺整備調整交付金 - 164 -
- (2) 防音事業関連維持費 - 165 -
- (3) 再編交付金 - 166 -
- (4) 市庁舎整備事業に対する補助金（再編関連補助金・SACO関連補助金） - 178 -
- (5) SACO特別交付金..... - 179 -
- (6) 基地交付金..... - 180 -
- (7) 調整交付金..... - 181 -
- (8) 農業及び漁業就労阻害補償 - 182 -
- (9) 中国四国防衛局（各部・各課等の業務） - 183 -

1 岩国市の概要

(1) 岩国市の位置と歴史

○位置 東経 132° 13′ 10″ .0008

北緯 34° 10′ 0″ .7163

○面積 873.72 k m²

(令和元年 10 月 1 日現在)

平成 18 年 3 月 20 日に、岩国市周辺市町村（玖珂町・周東町・錦町・本郷村・美和町・美川町・由宇町・岩国市）が合併し、

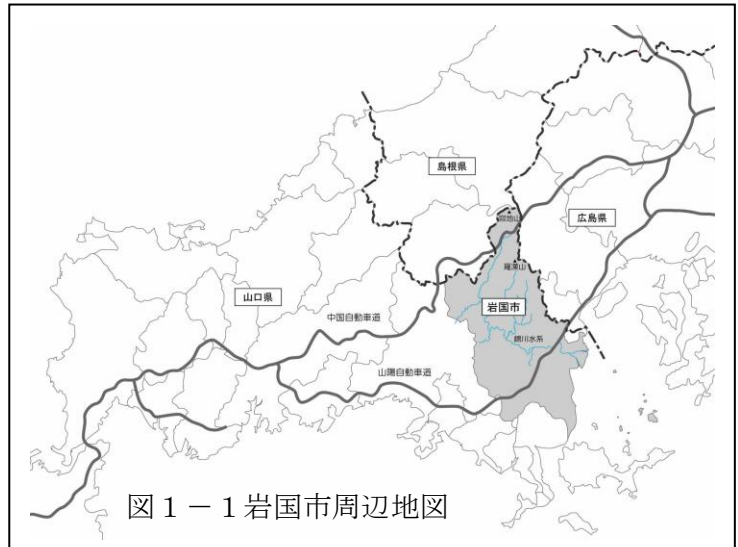
新しく岩国市となった。新「岩国市」は山口県東部に位置し、広島、島根の両県に隣接するとともに、臨海部は穏やかな瀬戸内海に面している。

瀬戸内海に面した岩国地域は、山口県東部の中心的な役割を担ってきた。まちの原型は、関ヶ原の戦いの後、出雲国富田 12 万石から岩国 3 万石（後 6 万石）に移封された吉川広家が初代岩国藩主になって以降のことで、歴代藩主が干拓事業に努め、明治維新を迎えるころには河口一帯に 15 k m²に及ぶ干拓地を作り上げた。この時代には、錦帯橋の架橋や岩国半紙の専売等、様々な事業が行われ、城下町として栄えていた。

一方、由宇地域は由宇縞白布の木綿織りの産地として知られ、玖珂地域及び周東地域は山陽道の宿場町として栄えていた。また、中国山地の山々を背に豊富な水量を育む錦川水系に位置する本郷水域、錦水域、美川水域及び美和水域は、平安期頃から「周防山代庄」と称され、農林業や和紙のまちとして発展する等、現在の本市の基礎が築かれた。

明治以降は臨海部に各種の工場が設置され、重厚長大型の産業都市として発展するとともに、旧日本海軍による岩国飛行場の建設を経て、戦後は米海兵隊岩国航空基地が置かれたことで、基地のまちとしての色合いが濃くなっていった。

また、錦帯橋や錦川の清流に象徴される自然豊かな観光地として知名度を上げる一方、近年は、広島市のベッドタウンとしての役割を担うとともに、山陽自動車道や岩国錦帯橋空港などの利便性を活かした企業誘致に力を入れる等、平成の大合併により新しく生まれた「岩国市」は、多面性をもつ市として発展を続けている。



(2) 岩国市の人口と世帯数

(令和元年 10月1日現在)

○人口 131,873人 男性 62,749人、女性 69,124人
 ○世帯数 64,559世帯

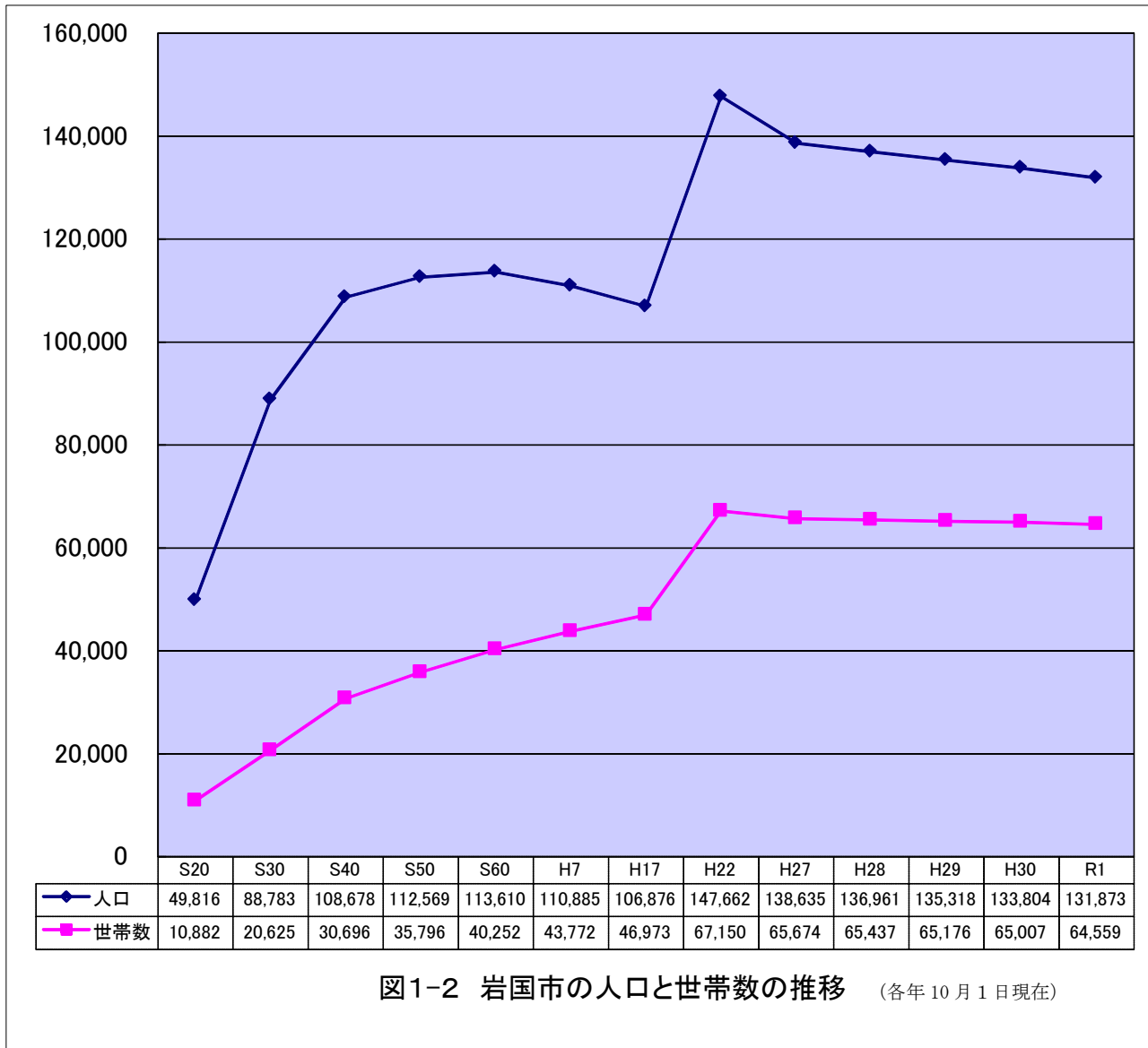


図1-2 岩国市の人口と世帯数の推移 (各年10月1日現在)

※平成18年3月20日、岩国市周辺の8市町村（玖珂町、周東町、錦町、本郷村、美和町、美川町、由宇町及び岩国市）が合併した。

(岩国市)

2 岩国基地の概要

(1) 基地の沿革

岩国飛行場は、昭和 13 年 4 月、旧日本海軍がその建設に着手し、昭和 14 年 12 月呉鎮守府所属練習隊を配置、昭和 15 年 7 月に岩国海軍航空隊として開設され、主として教育隊、練習隊の基地として使用されてきた。

終戦後、基地は米海兵隊に接收され、英連邦空軍・米空軍が駐留した。朝鮮事変の勃発とともに国連軍として英海軍部隊・米空軍及び米海軍部隊の一部が派遣され、基地から毎日のように単発戦闘機・ジェット戦闘機（英豪空軍）及び中型爆撃機（米空軍）などが前線支援のため発進していた。

その後、日米安全保障条約の締結に伴い在日米軍基地となり、米空軍、米海軍の使用を経て、米海兵隊航空師団に主導権が移り、米海兵隊岩国航空基地（MCAS IWAKUNI）となり現在に至っている。なお、平成 30 年 3 月の空母艦載機移駐完了により、米海軍も使用している。

また、海上自衛隊も昭和 32 年以来、一部共同使用している。

なお、昭和 27 年 4 月から 39 年 12 月までは民間航空会社が定期便を就航させていたが、昭和 39 年半ば以降においては、代替又は予備飛行場として使用されていたところ、平成 24 年 12 月 13 日に岩国錦帯橋空港が開港し、民間航空会社による定期便が再開された。

表 2-1 基地の沿革及び使用状況

年 月	内 容
昭和 13 年 4 月	旧日本海軍が宅地約 13,200 m ² 、耕地約 1,217,700 m ² を買収して岩国飛行場の建設に着手
14 年 12 月	呉鎮守府所属練習隊が配置
15 年 7 月	岩国海軍航空隊が発足
16 年 2 月	偵察練習生教育隊が配置
18 年 11 月	海軍兵学校岩国分校が開校
20 年 9 月	終戦後、米海兵隊が進駐し、基地を接收 (基地は次第に拡張され、終戦時には、4,514,400 m ² に至っていた)
21 年 2 月	英連邦空軍（英空軍・豪空軍・英印部隊・ニュージーランドなどの混成部隊）及び米空軍が進駐。基地の主導権を英空軍が握る
25 年 9 月	朝鮮事変の勃発とともに国連軍として英海軍部隊・米空軍及び米海軍部隊の一部が派遣されてきた
26 年 9 月	対日講和条約・日米安全保障条約を締結
27 年 4 月	日米安全保障条約に基づく在日米軍の基地となり、英豪空軍が撤退し、米空軍の基地となる。また、民間空港として開港され、日本航空（株）の東京・福岡線の中継地となる
27 年 6 月	羽田空港とともに国際空港となる
29 年 12 月	米海軍の基地となる この年、極東航空（株）が大阪・岩国間の就航を開始。他に CAT（中華）、QANTAS（オーストラリア）、KNA（韓国）も使用
31 年 7 月	米海兵隊第 1 航空師団・米海軍第 6 艦隊航空大隊が移駐（昭 27～昭 31 の

		間基地施設の拡充が行われ、現在の規模となる)
32年	3月	海上自衛隊教育航空群が共同使用を開始
33年	1月	米海兵隊に基地の主導権が移り、米海兵隊岩国航空施設となる
37年	7月	名称を米海兵隊岩国航空基地(MC A S I W A K U N I)として正式に海兵隊の航空基地となる
39年	12月	海上自衛隊教育航空群の代わりに航空自衛隊第 82 航空隊 (F 86F ジェット戦闘機 25 機、T 33 ジェット練習機 6 機、隊員約 500 名) が新田原基地から移駐
40年	9月	民間航空が路線の変更を行い、この年以降定期便は就航していない F-4B ファントムジェット戦闘攻撃機、A-4C スカイホーク攻撃機各 35 機を配備
41年	7~8月	米海軍第 6 艦隊航空大隊に P-3A オライオン対潜哨戒機 9 機を配備
42年	12月	航空自衛隊第 82 航空隊が小牧基地へ移駐
43年	6月	海上自衛隊第 51 航空隊岩国分遣隊が開隊
48年	3月	海上自衛隊第 31 航空群 (P S-1 対潜哨戒飛行艇 6 機、小型練習機 1 機、隊員約 500 名) が開隊 (昭 48. 3~昭 49. 3 すべり地区約 33,000 m ² を埋め立て、P S-1 の駐機場として使用)
49年	8月	米海兵第 513 攻撃機中隊が配備 (A V-8 A ハリアー垂直離着陸戦闘攻撃機 16 機)
50年	7月	米海軍第 6 艦隊航空大隊哨戒部隊が三沢へ移駐を開始 (P-3A オライオン 6 機移駐、一部残留)
51年	4月	米海兵隊第 1 航空師団司令部が沖縄のキャンプ瑞慶覧へ移駐 (隊員約 1,000 名)
51年	6月	米海軍第 6 艦隊航空大隊哨戒部隊が三沢へ移駐完了
51年	7月	海上自衛隊第 31 航空群第 71 航空隊が開隊 (U S-1 救難飛行艇を配備)
52年	5月	米海兵第 513 攻撃中隊が米国アリゾナ州ユマ基地へ移駐 (A V-8 A ハリアー移駐)
54年	5月	米海兵隊第 1 航空師団第 17 師団支援大隊が沖縄へ移駐 (隊員約 500 名)
55年	10月	愛宕通信所約 130,000 m ² を岩国飛行場に統合
56年	4月	第 12 司令部整備中隊所属の T A-4 M スカイホークを O A-4 M スカイホークに機種変更
58年	3月	第 1 海兵航空師団兵器部隊 (M W W U-1) がグアムアガナ海軍航空基地へ移駐
58年	3月	海上自衛隊第 51 航空隊岩国分遣隊が廃止 海上自衛隊第 31 航空群第 81 航空隊開隊 (U P-2 J・3 機配備)
58年	8~9月	滑走路補修工事のため滑走路閉鎖
59年	2月	海兵第 2 戦術電子戦中隊 Z 分遣隊 (E A-6 B・4 機) ノースカロライナ州チェリーポイント基地へ移駐
59年	10月	海兵第 2 戦術電子戦中隊 Z 分遣隊 (E A-6 B・4 機) ノースカロライナ州チェリーポイント基地から移駐
61年	8~9月	滑走路補修工事のため滑走路閉鎖
62年	3月	U-36A が試験飛行のため、海上自衛隊第 31 航空群第 81 航空隊に配備
62年	7月	米海兵第 115 攻撃中隊の配備に伴い、F-4 ファントムにかわって、F A-18 ホーネット (12 機) が配備
63年	4月	U-36A (2 機) が海上自衛隊第 31 航空群第 81 航空隊に正式配備
63年	5~10月	滑走路改修工事のため滑走路閉鎖 その間、米海兵第 332 攻撃中隊等が嘉手納基地ほか海外の基地へ分散移駐 (イントルーダー、スカイホーク、ホーネット等 74 機) 海上自衛隊も八戸、下総、徳島基地に移駐 (U P-2 J、U-36A・6 機)

平成	63年	9月	米海兵第12飛行大隊と第15飛行大隊が統合され、第15飛行大隊が廃止
	63年	11月～	海上自衛隊第1航空群移動部隊（P-2J・5機）が滑走路改修のため、
	元年	5月	鹿屋航空基地から岩国基地へ一時移駐
	元年	3月	PS-1用途廃止に伴い、第31航空隊が解隊
	元年	6月	米海兵第331攻撃中隊の配備に伴い、A-4Mスカイホークにかわって、
	元年	9月	AV-8BハリヤーII（14機）が配備
	元年	9月	海上自衛隊掃海ヘリコプター部隊第111航空隊が、V-107（2機）を伴い移駐
	元年	12月	海上自衛隊へMH-53Eの一番機が飛来
	3年	10月	米海兵第214攻撃中隊（AV-8BハリヤーII・ナイト・アタック20機）がアリゾナ州ユマ基地から移駐
	3年	11月	海上自衛隊第81航空隊にEP-3（2機）が初配備
	3年	12月	海上自衛隊第81航空隊にLC-90（1機）が配備
	4年	3月	米海兵第121全天候戦闘攻撃中隊（FA-18Dナイト・アタック・ホーネット）がカリフォルニア州エルトロ基地から移駐
			米海兵第224全天候攻撃飛行中隊（A-6E11機）がノースキャロライナ州チェリーポイント基地に帰還
			B-65（1機）が海上自衛隊第81航空隊から除籍
	4年	7月	米海兵第2戦術電子戦中隊X分遣隊（EA-6Bプラウラー6機）が米海兵第1戦術電子戦中隊になった
			海上自衛隊第8航空隊の新編に伴いP-3C（3機）が配備
	5年	3月	P-3C10機目が当初配備計画通り配備
	8年	5月	AV-8BハリヤーII（14機）が米国に帰還
	9年	6月	滑走路移設工事に着手
	10年	12月	海上自衛隊第31整備補給隊新編
	11年	2～4月	滑走路補修工事のため滑走路閉鎖
	11年	4月	海上自衛隊第81航空隊にUP-3D（2機）が配備
	13年	3月	海上自衛隊第8航空隊廃止
			海上自衛隊第81航空隊改編
			海上自衛隊第91航空隊新編
	13年	9月	HH-46Dシーナイトヘリコプター（3機）が米国に帰還
	14年	2～3月	CH-53Dシースタリオンヘリコプター（8機）が配備
	14年	3月	海上自衛隊第81航空隊にOP-3C（1機）が配備
			海上自衛隊岩国システム通信分遣隊新編
			海上自衛隊第31航空群の改編（江田島の第11海上訓練指導隊が標的機整備隊と改称し、第31航空群の隷下に入る）（江田島）
17年	9月	LC-90連絡機が装備変えで海上自衛隊第91航空隊から厚木基地へ移動	
19年	3月	海上自衛隊第71航空隊にUS-2が部隊配備	
19年	9月	米海軍第14掃海ヘリ中隊に所属するMH-53E型ヘリ2機から成る第1分遣隊が臨時展開により岩国基地に到着	
20年	3月	海上自衛隊第111航空隊にMCH-101（2機）、CH-101（1機）が配備	
20年	10月	臨時展開していた米海軍第14掃海ヘリ中隊のMH-53E型ヘリ2機が離日	
21年	5月	CH-101（1機）が海上自衛隊第111航空隊からしらせ飛行科へ所属変更	
22年	5月	滑走路を約1,000m沖合へ移設する工事が完成し、新滑走路の運用開始	
23年	3月	滑走路移設事業の完了	
24年	7月	普天間飛行場に配備するMV-22オスプレイ（12機）が岩国飛行場に陸揚げ	

24年	10月	MV-22 オスプレイ (12機) が岩国飛行場から普天間飛行場に移動完了
24年	12月	民間用の岩国錦帯橋空港開港。(羽田-岩国間をANA 1日4往復運航)
25年	7月	普天間飛行場に配備するMV-22 オスプレイ (12機) が岩国飛行場に陸揚げ
25年	9月	MV-22 オスプレイ (12機) が岩国飛行場から普天間飛行場に移動完了
26年	8月	米海兵隊第152空中給油輸送中隊(KC-130J・15機)が普天間飛行場から移駐
28年	3月	民間航空(ANA)の1日4往復の運航に加え、羽田便、那覇便(各1日1往復)の運航が開始され、1日6往復の運航を開始。
29年	1月	F-35B ライトニングII (10機)の配備に伴い、FA-18 ホーネット1部隊が米本国へ移動。
29年	8月	E-2Dが厚木飛行場から岩国飛行場に移駐。
29年	11月	F-35B ライトニングII (6機)が配備。
29年	11月	FA-18E スーパーホーネット部隊2個中隊が厚木飛行場から岩国飛行場に移駐。
29年	11月	EA-18G グラウラーが厚木飛行場から岩国飛行場に移駐。
29年	12月	C-2が厚木飛行場から岩国飛行場に移駐。
30年	3月	FA-18E, F スーパーホーネット部隊2個中隊が厚木飛行場から岩国飛行場に移駐。
令和元年	9月	KC-130 部隊による海上自衛隊鹿屋基地でのローテーション展開開始。

(2) 基地の概要

米海兵隊岩国航空基地は、岩国飛行場、祖生通信所及び愛宕山地区からなっている。

ア 位置及び面積

岩国飛行場は、本市臨海部のほぼ中央にあたる錦川河口の三角州にあり、平野部の少ない本市において約7.93km²もの広大な面積を占めている。

平成31年4月1日現在における基地の提供面積等の内訳は、次のとおりである。

令和元年当初 (出典：基地と岩国令和元年版(仮))

表2-2 基地の提供面積内訳(土地)

(平成31年4月1日現在)

市 場所	岩国市	大竹市 (阿多田島) (甲島)	総面積
岩国飛行場	約7,892(千)m ²	約1(千)m ²	約7,893(千)m ²
愛宕山地区	約755(千)m ²	—	約755(千)m ²
祖生通信所	約24(千)m ²	—	約24(千)m ²
計	約8,671(千)m ²	約1(千)m ²	約8,672(千)m ²
総面積に占める比率	約99.99%	約0.01%	100%

(中国四国防衛局)

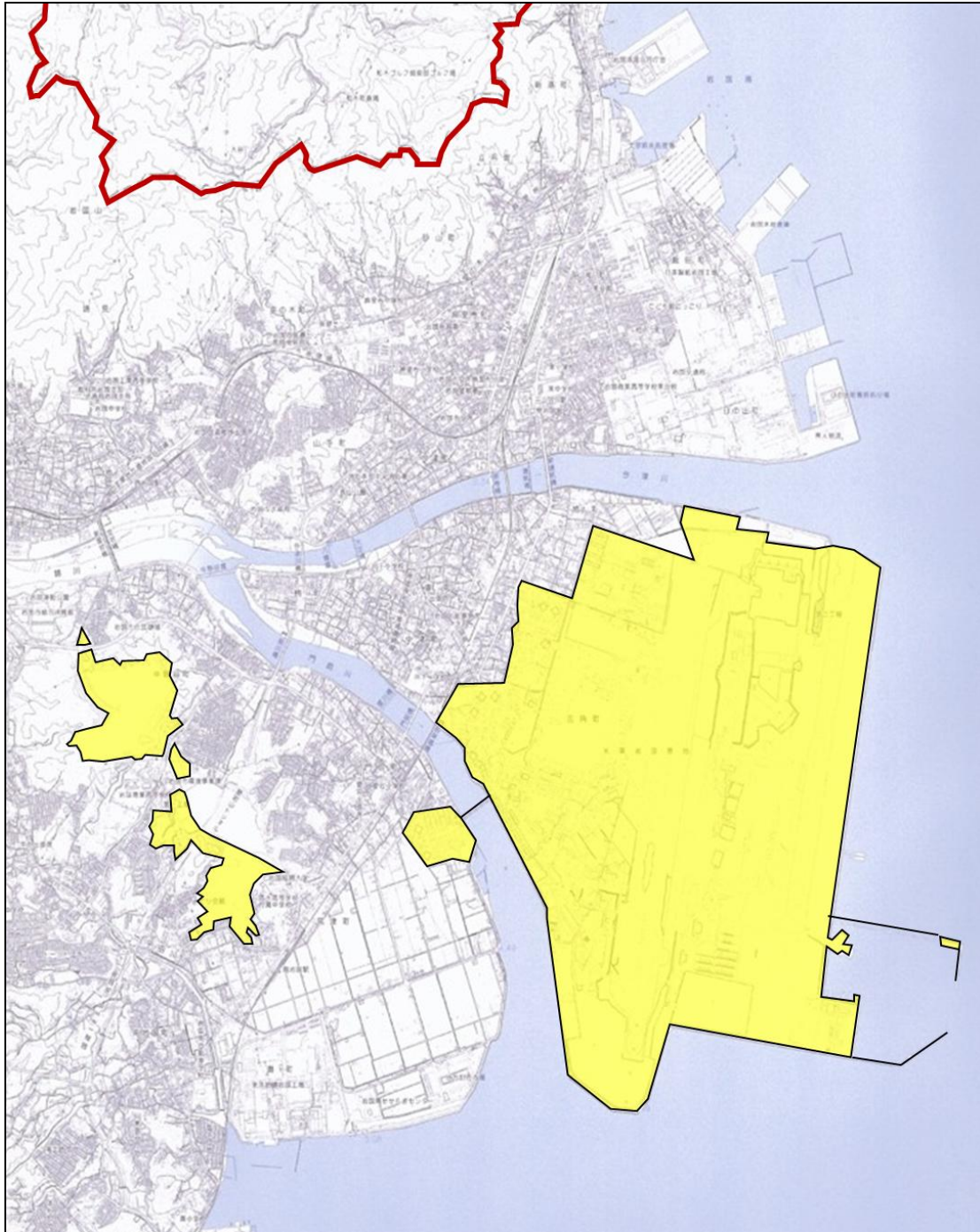
表2-3 岩国飛行場の使用形態

(平成31年4月1日現在)

使用区分	面積
米軍専用区域(提供面積)	約2,278(千)m ²
米軍管理自衛隊共同使用区域(提供面積)	約5,615(千)m ²
自衛隊専用区域(行政財産面積)	約33(千)m ²
合計(岩国飛行場総面積)	約7,926(千)m ²

(中国四国防衛局)

その他、基地東側水域約 18.7 km²が地位協定に伴う提供水域（船舶の航行禁止区域、漁船操業禁止区域）となっている。



(中国四国防衛局)

図 2 - 1 岩国基地位置図

イ 主要施設

(平成 31 年 4 月 1 日現在)

◇滑走路	1本
延長	8,005 フィート (約 2,440 m)
幅	197 フィート (約 60 m)
コンクリート舗装(一部アスファルト舗装)	



(中国四国防衛局)

◇オーバーラン	
延長	1,969 フィート (約 600m)
幅 (北側)	197 フィート (約 60m)
幅 (南側)	197 フィート (約 60m)

◇誘導路

◇ハリアーパット	929.03 m ² (約 30.48m × 約 30.48m)	1ヶ所
----------	---	-----

◇エプロン

◇海上自衛隊	水上飛行場 (SEA レーン)、飛行艇陸揚場
--------	------------------------

○建物・工作物

- ・格納庫
 - 米軍（国有） 10 棟
 - 海上自衛隊 4 棟
- ・管制塔
- ・オペレーション施設
- ・事務所施設
- ・倉庫施設
- ・住宅施設 563 棟
- ・娯楽施設（サクラ劇場、プール、ボーリング場、クラブ等）
- ・教育、厚生施設
 - （ペリースクール「小・中・高等学校」、メリーランド大学（UMGC）、病院、販売所、体育館、野球場、陸上競技場、愛宕カルチャーセンター等）
- ・通信施設（郵便局等）
- ・海上自衛隊庁舎、隊舎
- ・弾薬庫
- ・屋内ピストル射撃場
- ・港湾施設
- ・消火訓練施設

表 2 - 4 米軍・海上自衛隊の建物状況

（平成 31 年 4 月 1 日現在）

区 分		状 況	建 物	
			棟 数	延 べ 面 積
米 軍	岩国飛行場		1,432 棟	約 1,074,271 m ²
	祖生通信所		1 棟	約 127 m ²
	計		1,433 棟	約 1,074,398 m ²
海上自衛隊			73 棟	約 98,844 m ²
合 計			1,506 棟	約 1,173,242 m ²

（中国四国防衛局）



格納庫
(中国四国防衛局)



管制塔
(中国四国防衛局)



住宅施設
(中国四国防衛局)

◇ その他の附帯設備

表 2-5 エンジンテストの際使用する消音装置 (ハッシュハウス)

機 種	設置年度
エンジン単体用	平成 26 年度(完成)
機体用・エンジン用	平成 26 年度(完成)
機体用	平成 26 年度(完成)

(中国四国防衛局)



ハッシュハウス (中国四国防衛局)



ハッシュハウス内部 (中国四国防衛局)

ウ その他の施設

◇姫子島弾薬処理場

基地東側海上約 3.5 kmにある小島（登記簿上所在等、字姫ヶ子島、山林、991 m²）。昭和 14 年 8 月旧日本海軍が買収、戦後は米軍が基地の一部として接收し、爆撃訓練の標的として使用、現在は弾薬処理場として使用している



表 2-6 年間の姫子島弾薬処理状況

年次	区分	通告日数	実施日数	備考
昭和	50	91日	—	※平成12年11月～平成13年4月は姫子島改修工事の為、通常弾薬処理は行わず。
	51	20日	—	
	52	18日	—	
	53	70日	—	
	54	41日	—	
	55	29日	—	
	56	33日	—	
	57	42日	—	
	58	39日	—	
	59	30日	—	
	60	52日	—	
	61	90日	—	
	62	59日	—	
平成	63	64日	—	
	元	39日	—	
	2	127日	—	
	3	125日	—	
	4	77日	—	
	5	145日	—	
	6	144日	—	
	7	123日	23日	
	8	128日	32日	
	9	137日	33日	
	10	136日	12日	
11	166日	18日		
12	131日	13日		
13	116日	15日		
14	158日	5日		
15	81日	16日		
16	62日	17日		
17	112日	15日		
18	126日	17日		
19	130日	9日		
20	114日	5日		
21	122日	10日		
22	133日	11日		
23	125日	14日		

年次	区分	通告日数	実施日数	備考
平成	24	126日	11日	
	25	141日	8日	
	26	121日	7日	
	27	109日	18日	
	28	130日	8日	
	29	113日	20日	
	30	111日	10日	

(中国四国防衛局)

◇銭壺山無線中継所

海上自衛隊通信施設であり、防衛総合デジタル通信網（IDDN）中継所として運用されている。



(岩国市)

◇美川送信所

海上自衛隊通信施設であり、岩国航空基地と洋上で行動する航空機との間の通信及び呉基地と艦艇との間の通信を行うための送信所として運用されている。



(岩国市)

◇祖生通信所

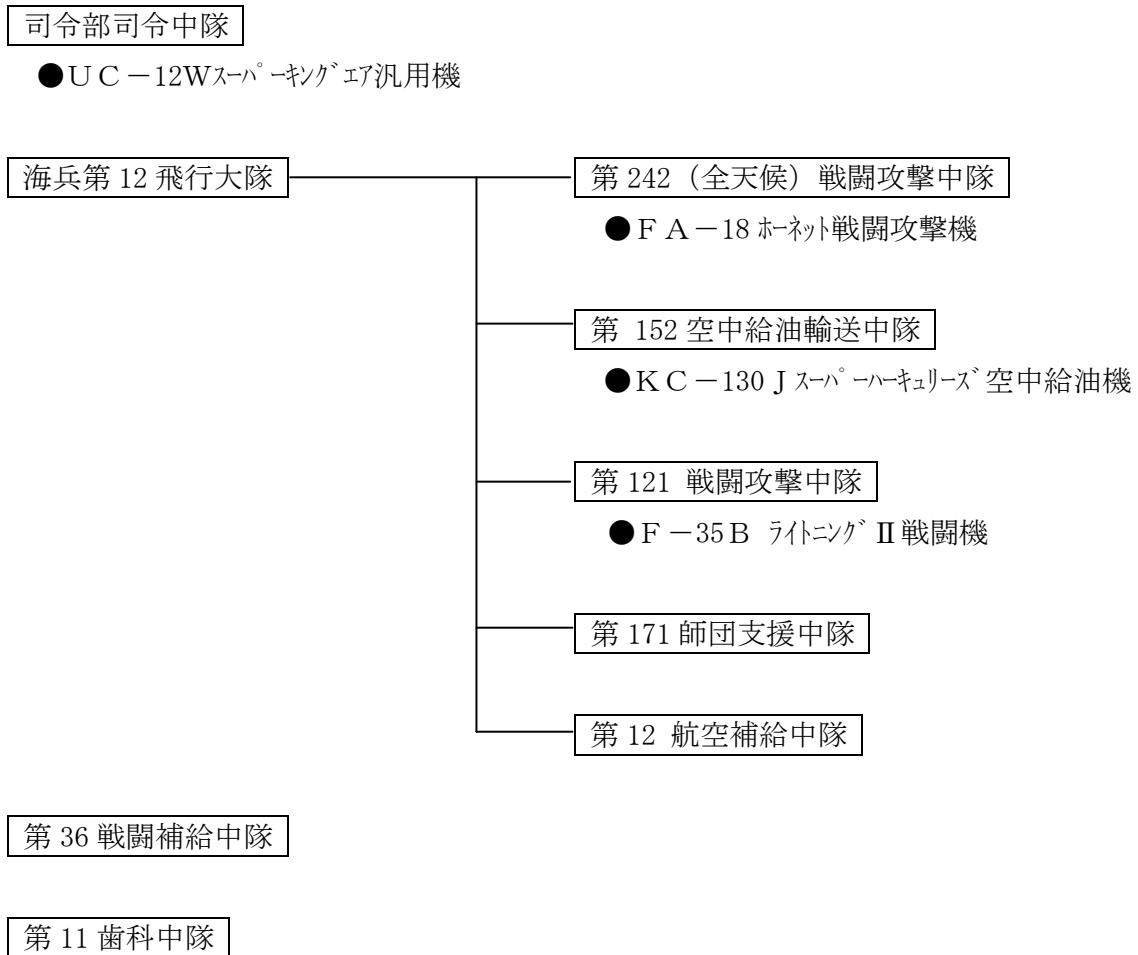
米軍専用マイクロウェーブ通信網の中継所及びVOR/DME(方位・距離情報提供施設)があったが、平成15年度に鉄塔等が撤去されている。平成25年10月30日に防衛大臣政務官等が来岩し、空母艦載機の移駐に伴い、岩国飛行場空域の効率的かつ安全な運用を図るため、米軍機と岩国飛行場との間の通信が必要となり、祖生通信所に鉄塔や通信局舎を整備する計画であるとの説明があった。その後、平成27年に建設工事着手、平成28年に完成し、同年には建物及び工作物が追加提供された。

(3) 米海兵隊岩国航空基地の現況

ア 組織及び編成

【海兵隊】

(令和元年12月1日現在)

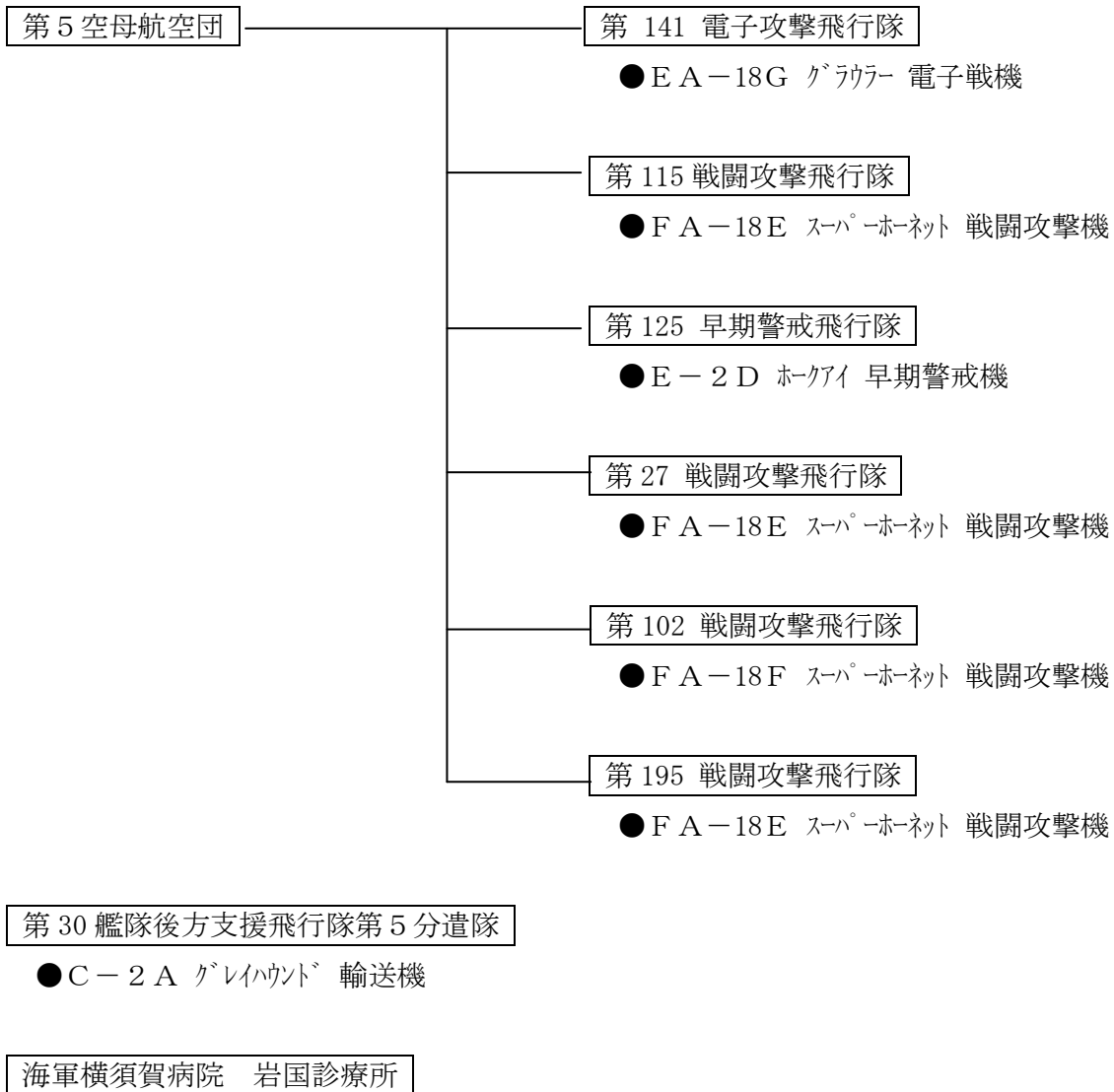


(米海兵隊岩国航空基地)

図2-2 岩国基地における米海兵隊の編成

【海軍】

(令和元年12月1日現在)



(米海兵隊岩国航空基地)

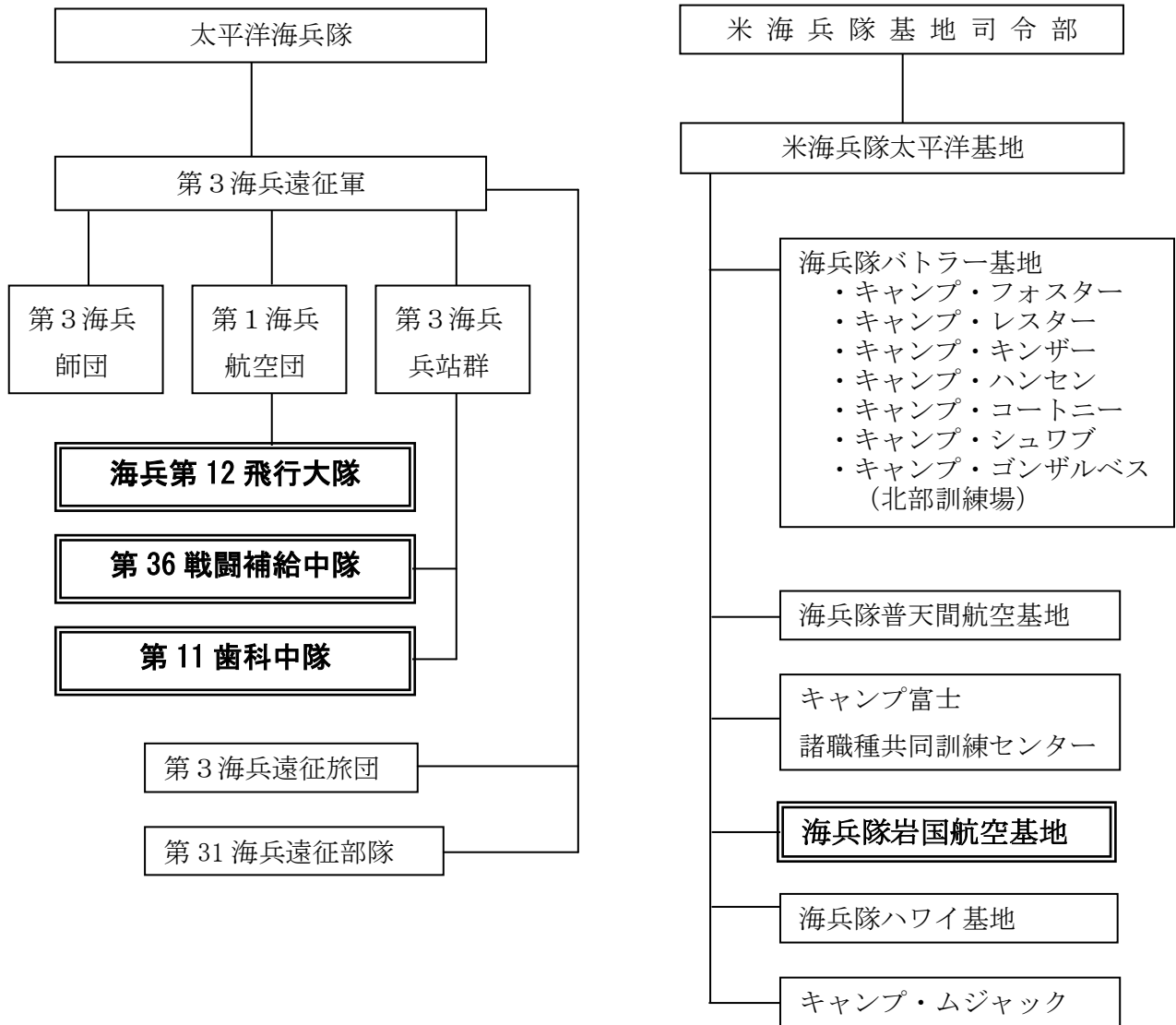
図2-3 岩国基地における米海軍の編成

イ 指揮系統図

(令和元年 12 月 1 日現在)

【海兵隊】

——— 作戦・指揮系統



(米海兵隊岩国航空基地)

図 2 - 4 米海兵隊の指揮系統 (略図)

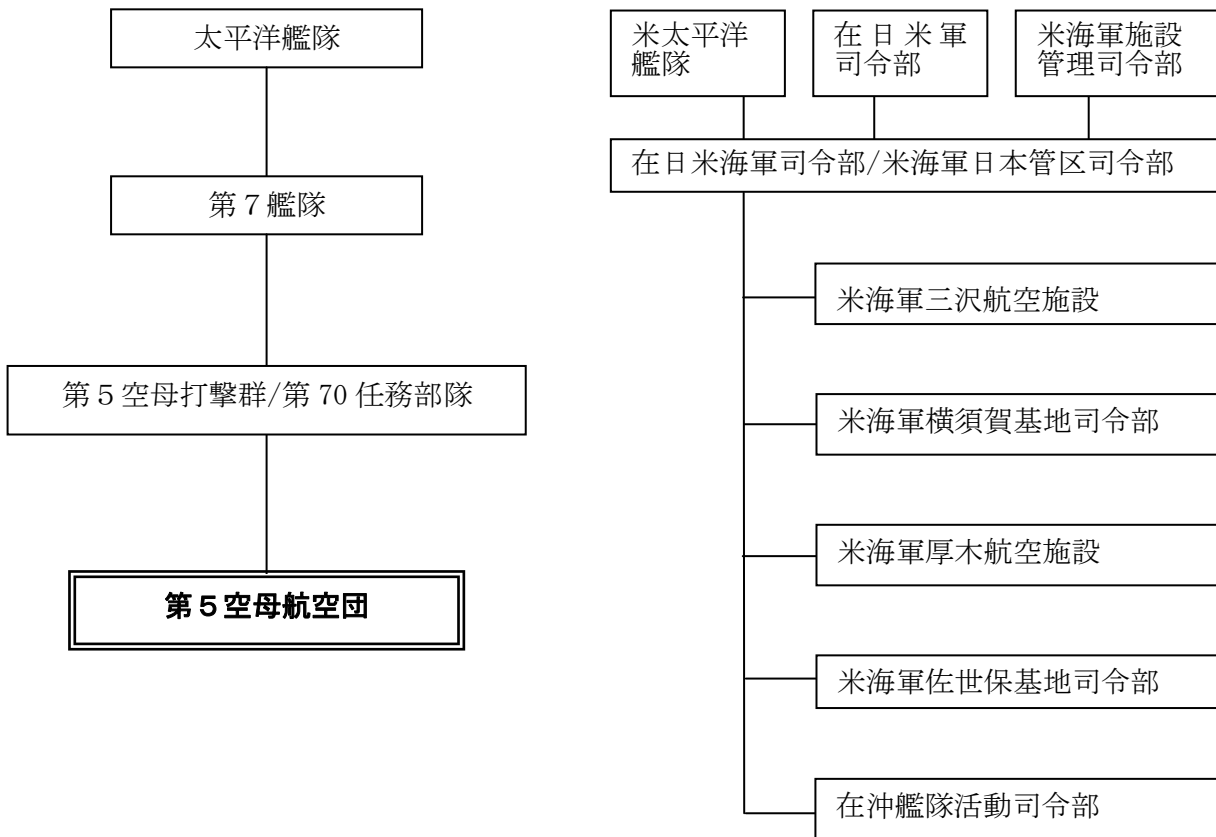


図2-5 米海軍の指揮系統（略図）

ウ 駐留部隊の任務

米海兵隊岩国航空基地隊は、第3海兵遠征軍や各種派遣部隊（第12飛行大隊など）、不測の事態にそなえての運用計画、また日本との相互防衛援助協定の要求に見合うよう、施設、物資、サービスを提供している。そして継続的に見直されている海兵隊資質哲学に従い戦闘及び人道的支援に対応している。

エ 歴代司令官

(令和元年12月1日現在)

表2-7 歴代司令官の階級、指名及び在職期間

階級	司令官名	在職期間
大佐	A. C. ロウエル	昭和 35. 8 ~ 昭和 36. 7
〃	J. K. デイル	36. 7 ~ 37. 3
〃	J. H. マクグロスリン	37. 3 ~ 37. 6
〃	M. E. W. オウルリッチ	37. 6 ~ 38. 7
〃	V. H. ハジンズ	38. 7 ~ 39. 5
〃	G. D. ウォルバートン	39. 5 ~ 39. 12
〃	H. A. ピーターズ	39. 12 ~ 40. 8
〃	J. T. マクダニエル	40. 8 ~ 41. 7
〃	W. M. ロンドン	41. 7 ~ 42. 7
〃	F. A. シュック	42. 7 ~ 44. 7
准将	W. R. クイン	44. 7 ~ 45. 8
大佐	J. L. ヴァンキャンペン	45. 8 ~ 47. 8
〃	E. S. マーフィー	47. 8 ~ 50. 2
〃	M. S. スタットザー	50. 2 ~ 51. 7
〃	R. D. ミラー	51. 7 ~ 54. 5
〃	S. F. シー	54. 5 ~ 58. 7
〃	D. J. マッカーシー	58. 7 ~ 61. 5
〃	J. B. ハモンド	61. 5 ~ 63. 5
〃	R. L. パパス	63. 5 ~ 平成 元. 9
〃	R. R. リニア	平成 元. 9 ~ 4. 7
〃	S. A. ブルーワー	4. 7 ~ 7. 6
〃	R. S. メルトン	7. 6 ~ 10. 4
〃	R. C. ダン	10. 4 ~ 13. 6
〃	D. T. ダラー	13. 6 ~ 16. 6
〃	M. A. ダイアー	16. 6 ~ 19. 7
〃	M. A. オハローラン	19. 7 ~ 22. 6
〃	J. C. スチュワート	22. 6 ~ 25. 7
〃	R. V. ブシェー	25. 7 ~ 28. 7
〃	R. F. ファースト	28. 7 ~ 令和 元. 8
〃	F. L. ルイス	令和 元. 8 ~

(米海兵隊岩国航空基地)

才 配備航空機

(令和元年 12 月 1 日現在)

海兵隊



FA-18C/Dホーネット戦闘攻撃機

全幅	11.43m
全長	17.07m
全高	4.66m
自重	10,455kg
速度	1,195km/h
乗員	1名(C) / 2名(D)

(米海兵隊岩国航空基地)

F-35B ライトニングII

全幅	10.67m
全長	15.57m
全高	4.57m
自重	12,426kg
乗員	1名



UC-12Wスーパーキングエア

汎用機

全幅	13.36m
全長	16.61m
全高	4.52m
自重	3,518kg
速度	536km/h
乗員	2名
乗客	8名

KC-130 J

スーパーハーキュリーズ空中給油機

全幅	40.41m
全長	29.78m
全高	11.66m
自重	34,169k g
最大速度	約 240 k m / h
乗員	5名
特徴	有効搭載量 約 20 t 兵員 92名



(米海兵隊岩国航空基地)

海軍



FA-18E/F

スーパーホーネット戦闘攻撃機

全幅	13.62m
全長	18.31m
全高	4.88m
自重	29,937 k g
最大速度	約 2,205 k m / h
乗員	1名(E) / 2名(F)

EA-18G

グラウラー電子戦機

全幅	13.62m
全長	18.31m
全高	4.88m
自重	29,964 k g
最大速度	約 2,205 k m / h
乗員	2名



E 2-D

アドバンスドホークアイ早期警戒機

全幅	24.56m
(※E 2-Cのもの、以下同じ)	
全長	17.60m
全高	5.58m
自重	24,690 k g
最大速度	約 629 k m/h
乗員	5名



C-2A

グレイハウンド輸送機

全幅	24.56m
全長	17.32m
全高	4.84m
自重	16,484 k g
速度	574 k m/h
乗員	3名
特徴	人員 28人